

教材事例書式

ひらがな カタカナ かるた 教材教具名 絵かるた	教科(国語)	
教材教具写真 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; font-size: 2em;">あ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; font-size: 2em;">ア</div> </div>		
教材教具の概略(ねらいと使い方) 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等		
<ol style="list-style-type: none"> 1 ねらい ひらがなとカタカナの読みの復習のため。遊びながら文字に親しむ。 2 発達段階 高等部1年 Bグループ 3 使い方 <ul style="list-style-type: none"> ・ ひらがな(カタカナ)を教師が読み上げて、生徒が取る。たくさん取った者が勝ち。(ひとり何枚かのノルマを決めて、その枚数を取った者からぬけていく。) ・ ひらがなカードとカタカナカードを混ぜて、じじぬきを行う。 ・ ひらがなカードとカタカナカードを混ぜて、神経衰弱を行う。 ・ ひらがなカードとカタカナカードを混ぜて、ぼうずめくりの要領で、ひらがな(カタカナ)めくりを行う。 		
児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等(次に利用する方のために)		
<ul style="list-style-type: none"> ・ かるたについて、グループのメンバーによっては、得意な者がどんどんたくさん取って、消極的な者がとらないということもあったので、2回目は、ひとり何枚かのノルマを決めて、ノルマの枚数を取ったものからぬけていき、早くぬけた者順に順位をきめていった。 ・ じじぬきや神経衰弱は、50音全部やるのは大変で、1回の枚数を減らして、何回かに分けてやるといい。 		